

人口減少時代の地域づくりに向けた地理学的研究

研究の概要

人口減少時代に突入した日本では、人口増加時代の既存の枠組みで地域の将来像を描くことが困難になっています。本研究では量的・質的なアプローチを組み合わせ、これからの地域づくりや人々の生活について皆様と一緒に考えていければと思います。

■ 人口移動研究

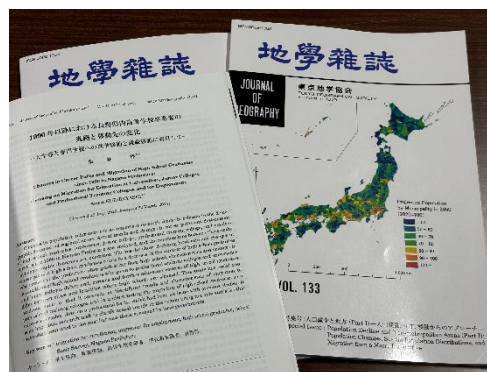
地域の将来を考えるにあたって、人々がどこからどこに流入／流出しているのか、それはなぜかを考えることは非常に重要です。地域統計や地理情報システムを活用し、人口移動の動態から地域について考察しています。

■ 公共施設・サービスの需給と人々の生活の変化

これまでは特に学校の撤退や新設立地に着目して、地域や人々の生活に与える影響について分析・考察を進めてきました。これからは学校の統廃合のプロセスや、それともなう人々の生活圏の変化にも迫っていこうと考えております。



京都府庁での聞き取り調査



長野県庁で収集した地域統計の分析
と結果報告

連携アピール



■ 以下、これまで研究にご協力いただいた自治体の一部です（埼玉県久喜市、埼玉県朝霞市、東京都文京区、長野県、三重県鳥羽市、愛知県瀬戸市、愛知県みよし市、愛知県美浜町、京都府、京都府京田辺市、鹿児島県南さつま市、など。その他複数のNPO法人、公益財団法人、学校法人、民間企業）。また、調査後、分析結果のフィードバックを「研究報告会」として実施して参りました。

キーワード



- 人口減少／人口移動
- 生活／ライフ
- 地域統計／地理情報システム

研究者



栗林 梓

Azusa Kuribayashi

助教 博士（学術）

 文学部 コミュニケーション学科

